

令和5年度の重点課題

○ 日ごろから運動に親しんでいる児童と運動に自信がなく、無関心な児童と二極化している。特に習い事をしている児童とそうでない児童との差は大きい。  
 ○ 全体的に運動量が減り、子どもたちの体力は低下していると考えられる。R5年度の結果をみると、男子は「50m走」「握力」「上体おこし」「20mシャトルラン」「ボール投げ」、女子は「上体おこし」「20mシャトルラン」「50m走」が県平均値かつ全国平均値より低い。また、児童の実態からも、昨年度同様に「50m走」「20mシャトルラン」が引き続き課題となると考える。

上記の課題を受けて具体的に取組んだ事項

○ 体育科目授業では、集団規律を徹底させ、指示を短く運動量を確保できるように指導した。  
 ○ 全体的な筋力の向上等を図るために年間を通して、学年ごとに工夫しながらいろいろな動きを取り入れていき、体力向上を図った。  
 ○ 持久力の向上を図るため、授業の中でなわとび運動を積極的、持続的に実施した。  
 ○ 「外遊び週間」など、体育委員会を中心に運動に親しめる機会を増やす取組を行った。

令和6年度新体カテストの結果 県平均値(令和5年度)・全国平均値(令和4年度)との比較

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点	女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
第5学年	16.64	17.40	34.64	46.60	50.78	9.32	154.24	21.29	54.47	第5学年	15.32	14.58	39.14	44.06	36.76	9.72	149.00	14.52	54.90

県平均値かつ全国平均値未満

令和6年度新体カテストの結果 県平均値(令和6年度)・全国平均値(令和5年度)との比較

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点	女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
第5学年	16.64	17.40	34.64	46.60	50.78	9.32	154.24	21.29	54.47	第5学年	15.32	14.58	39.14	44.06	36.76	9.72	149.00	14.52	54.90

県平均値かつ全国平均値未満

運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか

男子	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い	女子	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い
第5学年	81.08	18.92	0.00	0.00	第5学年	63.04	36.96	0.00	0.00

重点課題

情意面での課題

○ 男子  
 ・運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることがやや好きと答える児童の割合が18.92%である。  
 ○ 女子  
 ・運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることがやや好きと答える児童の割合が36.96%である。

体力面での課題

○ 男女ともに「上体おこし」は県平均値かつ全国平均値より低い。また男子は「ボール投げ」、女子は「握力」「20mシャトルラン」「50m走」に課題があった。

令和7年度の重点目標値

○ 積極的な外遊びを通して、運動に親しむことができる児童の人数を増やす。  
 ○ 男女の「上体おこし」を県平均値かつ全国平均値以上にする。  
 ○ 男子の「ボール投げ」を県平均値かつ全国平均値以上にする。  
 ○ 女子の「握力」「20mシャトルラン」「50m走」を県平均値かつ全国平均値以上にする。

重点課題に対応した改善する取組内容及び方法

体育の授業で行う取組内容

○ 体を動かすことの楽しさが味わえるように毎時間の始めには、なわとびを使った運動やボール運動、走・跳の運動等を積極的に取り入れる。  
 ○ 持久力の向上を図るため、授業の中でなわとび運動を積極的、持続的に実施する。記録の伸びが分かるようなわとびカードを工夫し、意欲的に取り組めるよう働き掛けていく。  
 ○ 走ったり、なわとびを跳んだりする中で、瞬発力や持久力向上と同時に、上半身の腹筋等の筋力向上を目指す。

体育の授業以外で行う取組内容

○ 各学級で外遊びや体育館遊びを取り入れ、積極的に外遊びができる環境を整える。  
 ○ 運動に親しめるように、校内クイズラリーを行い、スポーツへの関心を高める。  
 ○ 体育委員会を中心に、イベントを開催し、児童がボール運動や走・跳の運動に意欲的に参加できる機会を増やす。  
 ○ 「体力アップカード」などで遊具等を用いながら、個人で継続的に練習し、その成果を実感できる機会を設け、楽しく体力づくりができる取組を続ける。